

ハープで紡ぐ歌 海を越えて

バロックハープとリードオルガンの柔らかな音色にのせてお贈りする、
時空を超えた音楽の旅。
ヒストリカルハープの名手・西山まりえが、
日本の声楽界を代表する名バリトン・加来徹と共に描く、
抒情溢れるコンサート。
ヨーロッパの薫りと日本の情景が、今、一つに溶け合う。

西山まりえ
(バロックハープ&リードオルガン)

<演奏曲目>

C. モンテヴェルディ: 苦しみはかくも甘く
G. F. サンチェス: 悲しみの聖母
G. フレスコバルディ: このように私を蔑むのか
宵待草(竹久夢二／多忠亮)
別れし宵(竹久夢二／本居長世)
なみだ(竹久夢二／山田耕筰)
ほか



か く とおる
Guest **加来 徹** (バリトン)

2026 **10/17** (土)
今井館聖書講堂 (駒込)

①13:00開演(12:30開場)
②16:00開演(15:30開場) *各回70分間 休憩なし

主催: ムジカキアラ 後援: 日本ハープ協会

自由席・税込: 一般 ¥5,500 学生 ¥3,000

※学生券の対象は小学生～大学院生(25歳以下)とさせていただきます。※未就学児のご入場はご遠慮ください。

チケット取扱い

● イープラス



● ぴあ

Pコード:
323-270



ご予約・お問合せ: ムジカキアラ
Tel. 03-6431-8186 (平日10:00-18:00)
E-mail info@musicachiara.com

海を越え、時代を紡ぐ

西山まりえの豎琴と加来徹が紡ぎ出す情念の調べ。

艶やかに彩られるイタリアの愛と深き祈り、そして竹久夢二の世界に潜む、女の涙と深淵。

加来 徹 (バリトン) Toru Kaku, Baritone



東京藝術大学大学院修士課程を首席で修了。修了時に大学院アカンサス賞受賞。バロックから現代音楽、ミュージカルまで幅広いレパートリーを持つ。モーツァルト『コジ・ファン・トゥッテ』、ヘンデル『ジューリオ・チェザレ』、J. シュトラウスⅡ世『こうもり』など多数のオペラに出演し、表現豊かな演唱で観客を魅了。2025 年 2 月 ORCHARD PRODUCE 2025 オペラ『ドン・ジョヴァンニ』にマゼット役で出演し、大好評を博した。オペラシティ財団主催リサイタルシリーズ『B→C』では東京、福岡両公演満席の中、10ヶ国語による歌曲プログラムを熱演。バッハ・コレギウム・ジャパンでは「マタイ受難曲」のCDに参加する他、21 年 1 月の『エリアス』ではタイトルロールを務め絶賛された。26 年 3 月から 4 月にかけて開催のオランダバッハ協会『マタイ受難曲』のソリストに抜擢され、オランダ各地での 14 公演に出演。国内の主要オーケストラとは名演を共にし、25 年には山田和樹指揮日本フィルハーモニー管弦楽団と武満徹作品での共演、サッシャ・ゲッツェル指揮東京交響楽団『第九』公演、26 年 3 月には沖澤のどか指揮 NHK 交響楽団いわき定期公演モーツァルト「レクイエム」に出演し、高い評価を得た。これまでオクタヴィア・レコードより 5 枚の CD をリリースしており、2025 年 4 月に発売のシューマン：詩人の恋／リーダークライス 作品 39 を収録した『TORU KAKU Meets SCHMANN』が好評発売中。

西山まりえ (バロックハープ、リードオルガン) Marie Nishiyama, Baroque Harp & Reed Organ

チェンバロとヒストリカル・ハープ2種の古楽器を自在に操る希有なプレーヤーとして世界的に知られ、数多くのコンサート、音楽祭や録音に参加。ルネ・ヤコプス、ボブ・ヤング、「チーフタンズ」のパディ・モローニ、カルロス・ヌニェス、ミカラ・ペトリ、コリーナ・マルティ、山下洋輔、波多野睦美、藤原道山、森山開次など、幅広いジャンルに渡るアーティストとの共演は常に多くの反響を呼んでいる。また音楽番組、教養情報番組などTV出演も多い。国内外レーベルへの録音も多く、その多くが「レコード芸術」誌特選盤や朝日新聞推薦盤に選ばれるなど、高く評価されている。古楽界きっての歴女としても知られ、2013年から続く銀座・王子ホールの公演「西山まりえの歴女楽」は人気シリーズ。東京音楽大学ピアノ科卒業、同大学研究科修了後、ミラノ市立音楽院、バーゼル・スコラ・カントールムに留学。第11回山梨古楽コンクール・チェンバロ部門第1位(第23回同コンクール審査員)および栃木[蔵の街]音楽祭受賞。古楽ワークショップ「信州アーリーミュージック村音楽祭」芸術監督。日本ハープ協会理事。武蔵野音楽大学非常勤講師。2026年4月より、桐朋学園大学音楽学部古楽器専攻チェンバロ科非常勤講師を務める。

西山まりえオフィシャルウェブサイト <http://marienishiyama.com/>



<今井館聖書講堂のリードオルガン>

1907 年 (明治 40 年)、大阪の香料商・今井樟太郎の遺志により、妻・信子から思想家・内村鑑三に献じられた今井館聖書講堂。内村はこの講堂で聖書講義を行い、生涯にわたり信仰と思想を語り続けました。講堂は移転を重ね、2021 年に文京区本駒込の静かな住宅地に新たな姿で受け継がれています。



1929年製YAMAHA

この講堂には二台のリードオルガンが伝えられています。基督教独立学園教師・榎本梅子寄贈の Nishikawa & Son. 7 ストップ・オルガン (1912 年製造) と伝道者・政池仁寄贈の YAMAHA 7 ストップ・オルガン (1929 年製造)。素朴で温かなリードの響きが、歴史ある講堂の空間にやさしく広がります。

※楽器の状態によって、本公演で使用しない場合がございます。

